

することができる。今後、このような高性能なセンサーの開発が進み、普及されれば、さらなるデータ精度の向上が期待される。

おわりに

メッシュ農業気象データが公開されて以降、気象データ、特に予報値を農業に取り込むハードルが下がり、研究のみならず、一般にも広く利用されるようになった。今後さらに気象データの社会実装が進み、気候変動に伴う生産環境変化にも対応できるよう、デー

タの普及、また、システムの開発および運用に尽力していきたいと思う。

引用文献

- 小南靖弘ら 2020. メッシュ農業気象データ利用マニュアル Ver.4.1. 農研機構, 67pp.
- Maruyama, A. *et al.* 2020, Multiple-globe thermometer for measuring the air temperature without an aspirated radiation shield, *Agricultural and Forest Meteorology*, 292-293, 108028.
- 西森基貴ら 2019, 農業利用のための SI-CAT 日本全国 1km 地域気候予測シナリオデータセット (農研機構シナリオ 2017) について, *シミュレーション* 38, 150-154.
- 農研機構 2020a, 地域気候変動適応策評価のための「農研機構地域気候シナリ

オデータセット」の利用標準作業手順書 https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/139234.html.

農研機構 2020b. 1km メッシュ農業気象データシステムの利用と応用 https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/134540.html.

農研機構 2021. 50m メッシュ精密気象データの作成法標準作業手順書 https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/138712.html.

大野宏之ら 2016. 実況値と数値予報, 平年値を組み合わせたメッシュ気温・降水量データの作成. *生物と気象* 16, 71-79.

田畑の草種

血止草 (チドメグサ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

ウコギ科チドメグサ属の多年草。東北以南の水田畦畔や耕作地周辺のやや湿った所、休耕田、池塘、湿った道端、側溝などにごく普通。細い茎は良く分岐し、節から発根して地表を這う。葉は互生し、葉身は円形、表面に光沢があり、掌状に浅く裂ける。春から秋の間、葉の腋に短い花柄を出し小型の散形花序をつける。花序は葉の位置より低く花は目立たない。

日本の在来種である。

古来、どこにでもある雑草として邪険にされてきたのだと想像する。田を作ればその畦で、水路を作ればその堤で、畑にせよ住まい周辺にせよ、少しばかり湿り気のあるところだとどこでもみられる。どこでもみられるが地表面を這い回るためそんなに邪魔にはならない。難点はこの草の上は気を付けて歩かないと滑りやすいことだろうか。背の高い草が繁茂するとやがては少なくなり、背の高い草が刈られるとまた、勢力範囲を広げていく。戦国時代さながらの陣取り合戦である。

室町時代の後半、武田信玄・上杉謙信らが割拠していた戦国

時代、各地で陣取りのための合戦が繰り返し行われていた。そんな戦のたびに、「足軽」と呼ばれる歩兵集団が組織されるのだが、彼らは戦のない時には農民であった。ひとたび戦に加入すると命を落とすこともあるが、軽い擦過傷や切り傷の場合、この草を摘み、洗い、揉んで傷口に貼りつけることで、その傷の血を止めることができるということを十分に知っていたはずである。止血に効果のある野草には、ヨモギ、ドクダミ、イタドリなどがあげられるが、医学的根拠があるわけではない。止血作用としてこれらの野草に含まれているタンニンの収斂作用が血管や組織の収縮をもたらすと考えられている。

「血止草」の名は、古くから民間で血止めのために使ったことからこの名がついた。

因みに陣取りで広がっていく様子は、牧野植物図鑑のチドメグサの図をみれば一目瞭然である。四方八方に広がっていく。その広がり方や定着の仕方から在来のグランドカバープランツとしても利用可能と思えるのだが。